

## 【「ガスによる火災」におけるデータ分析と事例】

本組合管内では過去25年間（1995年～2019年）に、59件のガスによる火災が発生しています。

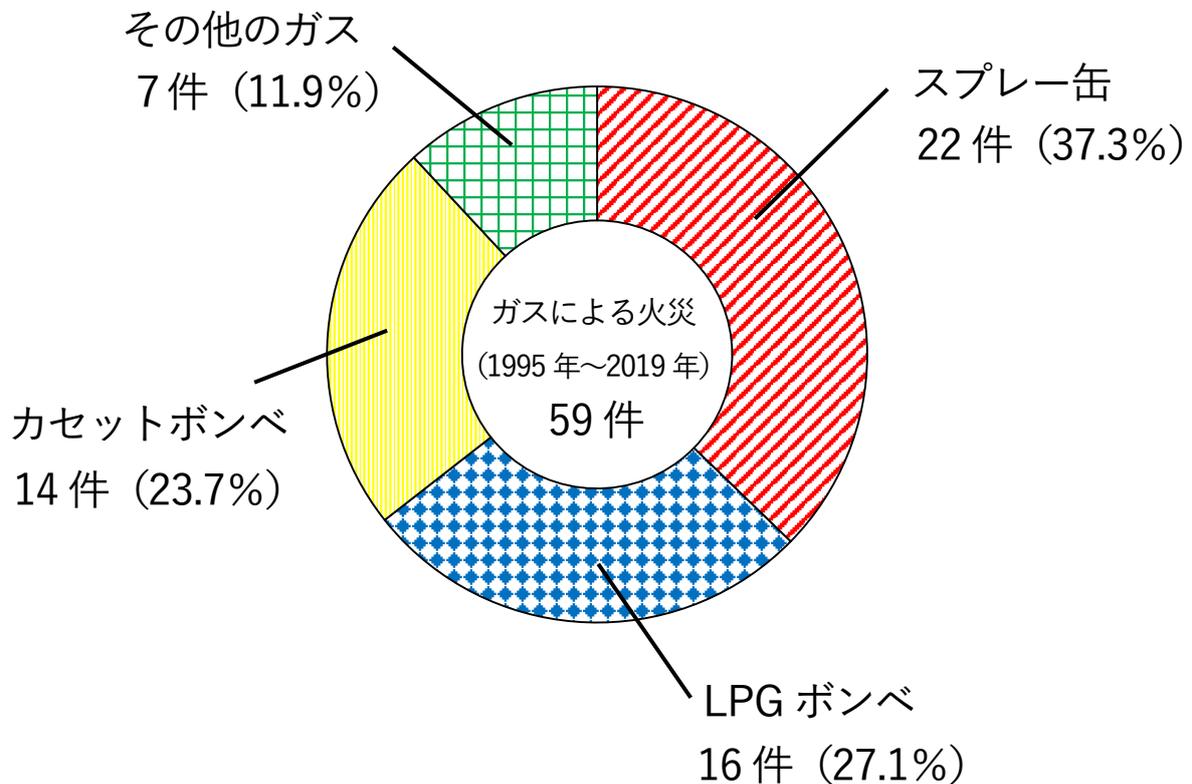
ガスによる火災は、時として大規模な爆発火災に発展し、社会的・経済的影響をもたらす可能性があります。

そのような状況を予防するため、データ分析結果と具体的な事例を示し注意喚起を図ります。

### 1 着火物

着火物で最も多いのが「スプレー缶」で22件（37.3%）、次いで「LPGボンベ」が16件（27.1%）、「カセットボンベ」が14件（23.7%）と続きます。

「スプレー缶」は、主にヘアスプレー、殺虫剤、消臭剤などです。



## 2 発火源

発火源として最も多いのは、「ごみ収集時の衝撃等」で16件（27.1%）、次いで「ガスコンロの火」が11件（18.6%）、「電気機器等の熱」が8件（13.6%）、「ライターの火」と「ストーブの熱」がそれぞれ7件（11.9%）と続きます。

### (1) 「ごみ収集時の衝撃等」による火災

全て誤った処分方法によるものです。

収集時にスプレー缶やカセットボンベなどが押しつぶされ、さらに摩擦熱や衝撃による火花等によって火災が発生しています。

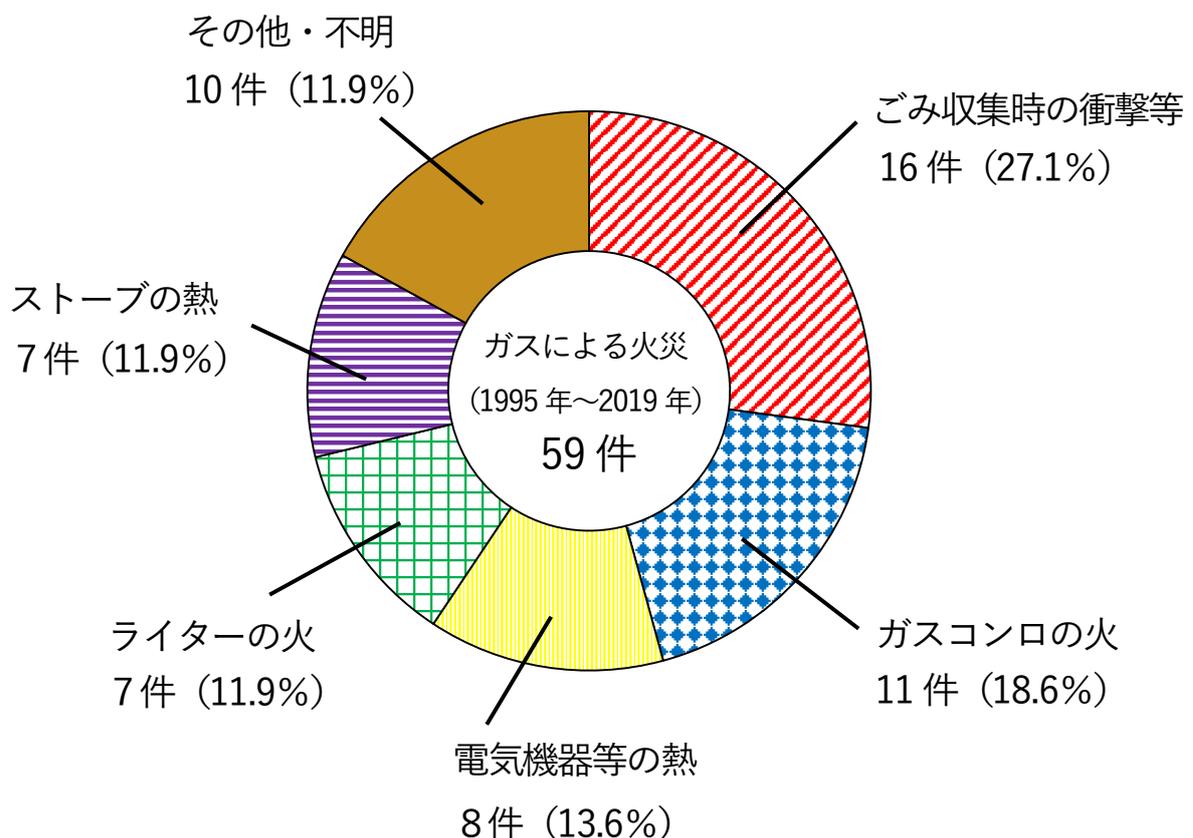
### (2) 「ガスコンロの火」、「電気機器などの熱」、「ライターの火」による火災

台所や厨房のLPGガスコンロのガス漏れにより屋内にガスが充満し、または屋内でスプレー缶やカセットボンベのガス抜きのための穴あけ作業をしていたために、充満したガスに引火して火災が発生した事例です。

### (3) 「ストーブの熱」による火災

ストーブの近くにスプレー缶を放置したことにより、加熱され火災が発生した事例。

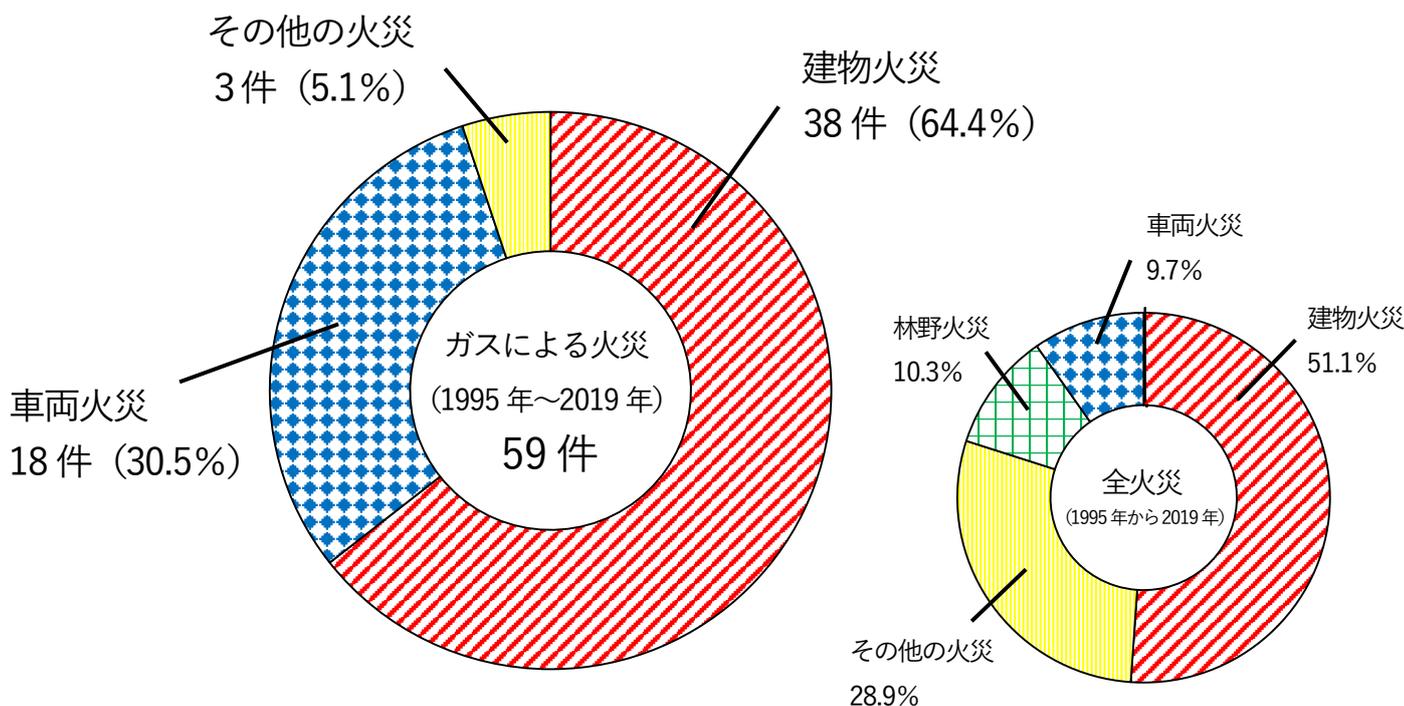
屋内でスプレー缶やカセットボンベのガス抜きのための穴あけ作業をしていたために、充満したガスにストーブの火が引火して火災が発生した事例などがあります。



### 3 火災種別

火災種別で最も多いのが、建物火災で38件（64.4%）、次いで車両火災が18件（30.5%）、その他の火災が3件（5.1%）と続きます。

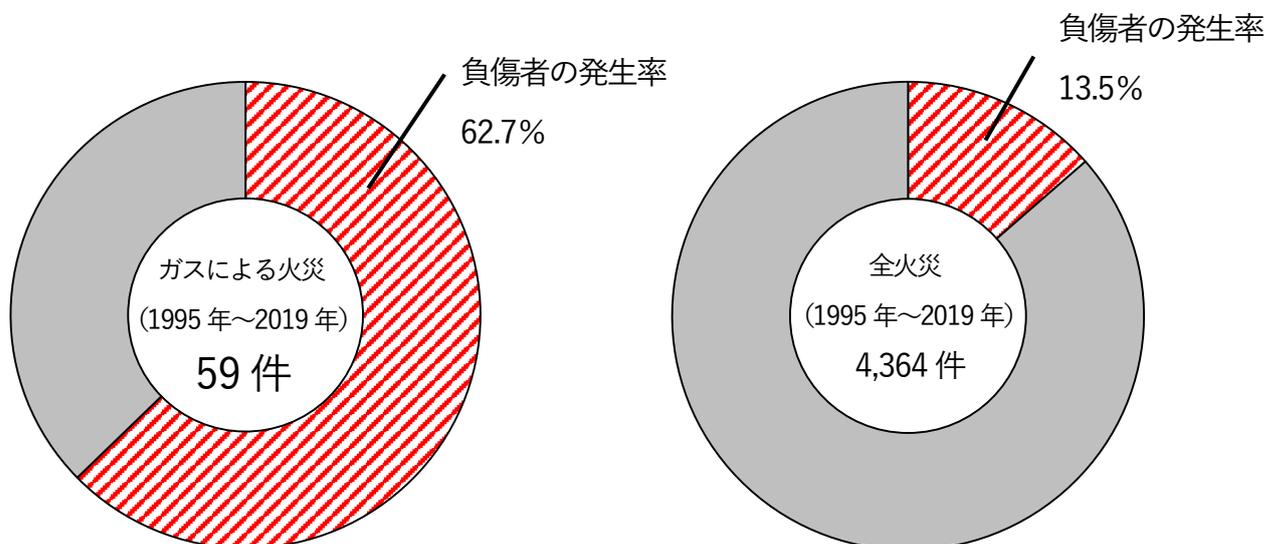
同期間の全ての火災における火災種別割合と比較すると、建物火災、車両火災の割合がそれぞれ13.3ポイント、20.8ポイント高いことが分かります。



### 4 死傷者

59件のガスによる火災で、37人の負傷者が発生しています。

負傷者の発生率は62.7%で、同期間の全ての火災における負傷者の発生率（13.5%）と比較すると、約5倍の発生割合となります。



## 5 注意点

- (1) ガスの使用を伴う機器、製品などは、取扱説明書をよく読み正しく扱う。
- (2) スプレー缶やカセットボンベなどを処分する際は、お住まいの自治体のルールに従って正しく行う。
- (3) 日常生活や業務上使用するスプレー缶などは、ストーブの近くはもちろんのこと、直射日光が当たる場所などは避けて保管する。
- (4) スプレー缶やカセットボンベのガス抜きのための穴あけ作業は、必ず屋外の風通しのよい場所で行う。